

ツグミ (学名: *Turdus naumanni*)

[スズメ目 ヒタキ科]



▲雪の解けた地面に降りて食べ物を探すツグミ

▲樹上にとまるツグミ

只見の長い雪の季節が終わりを迎え地面が顔をだしはじめるこの時期、開けた草地や田畑に群れで降りている鳥を見かけることがあります。これは、ツグミです。ツグミが地面に降りているのは、土中のミミズや昆虫類、種子といった食べ物を採るためです。地面の上をピョンピョンと跳ねるように移動し、立ち止まると、胸を張るような独特の姿勢をとります。これは周囲に捕食者などがいないかを警戒しているのだと考えられています。

雪の多い只見町では、冬期は野鳥が少なくなりますが、この時期でもよく目にします。地上で採食することが多い鳥ですが、積雪期には枝先に残った果実などを食べているようです。葉の落ちた枝先にとまり、枝から飛び立つときに「キョ キョ」と特徴的な声で鳴きます。

ツグミは、夏はシベリアで繁殖し、秋になると日本や東南アジアに渡り冬を過ごします。日本では、全国的に普通に見られます。全長24cmほどで、頭から背が焦げ茶あるいは茶褐色をしており、目の上に白い線が入り、胸に黒いウロコ模様の特徴的な斑(はん)があります。ツグミは、北へ渡る時期が比較的遅いため5月中旬まで姿を見ることができます。

企画展

「只見の自然を食べる」

と き:3月21日(木・祝)~4月22日(月)

と ころ:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

講座

「只見の自然を食べるー只見町の食文化の特徴」

講 師:平出美穂子氏(福島の食文化研究家)

と き:3月21日(木・祝)13:30~15:30

と ころ:ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室

詳しくは、
只見町プラナセンター
までお問い合わせ
ください

雪まつりの大雪像を活用して

「キャンドルナイト」開催

雪まつり開催から1週間後の2月16日、雪まつりの大雪像をキャンドルで彩る「キャンドルナイト」が開催されました。イベントでは、大雪像に多くのキャンドルが設置され、夕暮れとともにキャンドルに灯された幻想的な「赤れんが庁舎」の姿が現れ、会場では写真を収める姿などが見られました。

